

科目名	教職入門		
担当教員名	狩野 浩二、増田 吉史、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1,4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」として開設されます。

講義内容としては「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容（研修、服務、及び身分保障等を含む）」「進路選択に資する各種の機会の提供等」を含む講座です。

小学校教員を目指す1年生（児童教育学科）前期のみなさんと共に、教職科目のもっとも最初の学修内容として、「教師の仕事とは何か」ということを、さまざまな角度から学修することになります。

この科目を勉強したあと、教育の原理原則に関する科目（教育学概論）、教育の社会的事項に関する科目（学校関係法規）、教育の心理に関する科目（教育心理学）を学ぶことになります。

教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、受講生同士が討論したり、発表したり、その内容をもとに新たな課題を追求したりすることができるようになること、などがねらいです。

内容

以下、取り上げる項目を挙げておきます（順不同）。

1. 教師の仕事とは
2. 教員免許制度
3. 教員の養成制度
4. 教員の採用
5. 女教師論
6. 学校とは
7. 学校と家庭
8. 学校と地域
9. 学級と学級経営
10. 授業の役割
11. 生徒指導の役割
12. 学校をめぐる法律・規則
13. 教師の職場としての学校
14. 教師の研修
15. まとめ

評価

講義の際に書いてもらう学習票（20点）と、最終試験（80点）を総合して、単位を認定します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しません。プリントなどを随時配布します。

【推薦書】斎藤喜博編 『島小の女教師』 明治図書出版

斎藤喜博 『授業 子どもを変革すること（新装判）』 国土社

斎藤喜博 『君の可能性』 ちくま文庫

【参考図書】教室で随時紹介します。

科目名	教育学概論		
担当教員名	狩野 浩二、高岡 信也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生後期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。1年の前期に学修した「教育者論」に続いて、先生になるための勉強をすることになります。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

1. 学ぶことと教えること
2. 育つことと育てること
3. 学校の登場
4. 近代学校の性格
5. 日本の学校
6. 学力とは何か
7. 教科と道德教育
8. 教育の内容と方法
9. 教育評価
10. 学校の可能性
11. 青年の教育
12. 生涯学習と社会教育
13. 子どもの権利とは何か
14. 十文字学園の創設と近代女子教育の流れ
15. まとめ

評価

講義で毎回書いてもらう小レポート (20点)、試験 (80点) などを総合して評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト (教科書) 】田嶋一他著 『やさしい教育原理 (新版) 』 有斐閣アルマ

【推薦書】 斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社
ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫
シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】 テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	学校関係法規		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

法と制度の観点から、学校教育を成り立たせている仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の教育及び学校における諸問題を考察する視点を得ることである。

科目の概要

学校教育を法と制度の観点から見ることは、実際の社会的現実の中で学校教育が果たしている役割に目を向けることになり、学校教育の役割が制度として理解できることである。

基本的な学校関係法規について扱う中で、わが国の学校教育についての理解を深めるとともに、近年の教育改革の動向についても考察する。

学修目標

教育の基礎理論に関する科目として、学校教育に関する基本的な法と制度を理解する。

内容

1	教育の目的及び理念等に関する法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する法規
3	教育行政機関の仕組み等に関する法規
4	学校の種類・設置等に関する法規
5	学校運営等に関する法規
6	学校教育の目的・目標等に関する法規
7	学級編制等に関する法規
8	学習指導要領等に関する法規
9	教育課程の編成等に関する法規
10	教科書（教科用図書）等の教材に関する法規
11	教職員の組織・職務等に関する法規
12	教職員の人事・服務等の特例に関する法規
13	就学・入学等に関する法規
14	保健・安全・給食等に関する法規
15	まとめ

評価

授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）60点、課題レポートなどの提出物40点、などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『必携 小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版

『解説 教育六法』解説教育六法編集委員会 三省堂

『教育法規便覧』 窪田眞二・小川友次 編 学陽書房

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

小学校教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、これから勉強していく各教科（国語・算数など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1 から 9 までは、テキスト『やさしい教育原理（新版補訂版）』に沿っています。

1 0 から 1 4 までは、資料を配付する予定です。

1. 学習することの意味（第5章1）
2. 授業を改革するために（第5章2）
3. 学校教育の可能性（第5章3）
4. 授業をつくる 教材の発見（第7章1）
5. 授業をつくる 学ぶことは変わる（第7章2）
6. 学校をつくる（第7章3）
7. 教師とは何か（第8章1）
8. 教師の力量とは何か（第8章2）
9. 授業をつくる教師（第8章3）
10. 「森の出口」
11. 「蛙はいつ眠るの」
12. 「長さしらべ」
13. 「王様は幾人」
14. 「想像説明」
15. まとめ

評価

個別学習・組織学習票（20点）と課題研究（80点）を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】田嶋一他『やさしい教育原理（新版補訂版）』有斐閣、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』教育出版

箱石泰和編『授業＝子どもとともに探求する旅』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校「国語科」について教科の特性や指導すべき内容、方法などを概観する。

小学校学習指導要領から教科の目標・内容など教科の特性を知る。また、指導案の書き方や実施の授業場面での留意事項など具体的な例を挙げながら学ぶ。

小学校での国語科の位置づけを知り、具体的な実践力を身につける。

内容

1	ガイダンス (ことばの学びとは)
2	小学校学習指導要領における国語科の目標、領域
3	国語科教育の変遷と現在
4	話すこと・聞くこと
5	「伝え合う」力を育てる
6	「読む力」をつける
7	「読む力」をつける
8	「読む力」をつける
9	「書く力」をつける
10	「書く力」をつける
11	言語活動
12	伝統的な言語文化
13	国語教室の実際
14	国語教室の実際
15	「ことば」の学習を支えるもの、まとめ

評価

毎回のミニレポート (6 割)、最終レポート (4 割)、模擬授業などの参加状況を加点する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領解説 (総則編)、小学校学習指導要領解説 (国語編) 東洋館出版社

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「算数概説」の上に立ち、小学校低学年の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置く。小学校高学年は「算数教材研究法」で行い、さらに、「算数教材研究法」へと発展していく。

算数科 (小学校低学年) の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法のあり方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を参考に指導計画を作成し、授業のあり方を考える。

実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価を行う。

内容

1	ガイダンス (第 1 学年の指導のポイント)
2	算数科の指導内容と指導上の留意点 (第 1 学年の指導計画と指導案)
3	年間計画と学習指導案の書き方 (第 2 学年の指導計画と指導案)
4	図形の模擬授業とその評価 (第 1 学年「かたちあそび」)
5	数量関係の模擬授業とその評価 (第 2 学年の指導のポイント)
6	数と計算の模擬授業とその評価 (第 2 学年「100より大きい数」)
7	量と測定の模擬授業とその評価 (第 2 学年「長さをはかる」)
8	教材研究と学習指導案の作成 (第 2 学年「かけざん」)
9	教育機器を利用した授業とその評価 (第 3 学年の指導のポイント)
10	数と計算の模擬授業とその評価 (第 3 学年「わりざん」)
11	量と測定の模擬授業とその評価 (「重さ」)
12	教育機器を利用した授業とその評価 (「時刻と時間」)
13	小学校低学年の算数科指導における留意点
14	小学校高学年の算数科指導における留意点
15	振り返りとまとめ

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業 (80%)、試験 (20%) で評価。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 (1) 小学校学習指導要領解説算数編 文科省著 (東洋館出版社)

(2) 学力向上フロンティアスクールの実践 9 「算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3 年実践編」明治図書

【推薦書】 (1) 学力向上フロンティアスクールの実践 10 「算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6 年実践編」明治図書

(2) 学力向上フロンティアスクールの実践 8 「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」 明治図書

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

内容の項目に示した4つの観点から授業を展開して、子どもの身心の発育発達と運動技能の向上についての理解と授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。理論と実技を交えて学習や活動を展開する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	体育科の定義および体育授業を取り巻く制度的な条件の概要
2	体育科の目標・内容・その取扱いについて (領域別・学年別)
3	体育科の授業づくり : 授業づくりの構造的な理解
4	体育科の授業づくり : 指導計画と指導案作成の手順
5	体育科の授業づくり : 学習過程と指導技術の関連
6	体育科の授業づくり : 学習場面の設定と補助法のポイント
7	運動領域別の指導法 : 器械運動・体づくり運動 * 実技も行う
8	運動領域別の指導法 : ボール運動 * 実技も行う
9	運動領域別の指導法 : 陸上運動・表現運動 * 実技も行う
10	運動領域別の指導法 : 水泳 (DVD の活用) ・保健
11	模擬授業
12	模擬授業
13	模擬授業
14	保健学習のポスター発表
15	まとめ

評価

発表活動 (30点)、レポート (30点)、試験 (30点)、通常の授業態度 (10点) による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年

」 光文書院 「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

内容の項目に示した4つの観点から授業を展開して、子どもの身心の発育発達と運動技能の向上についての理解と授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。理論と実技を交えて学習や活動を展開する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	体育科の定義および体育授業を取り巻く制度的な条件の概要
2	体育科の目標・内容・その取扱いについて（領域別・学年別）
3	体育科の授業づくり : 授業づくりの構造的な理解
4	体育科の授業づくり : 指導計画と指導案作成の手順
5	体育科の授業づくり : 学習過程と指導技術の関連
6	体育科の授業づくり : 学習場面の設定と補助法のポイント
7	運動領域別の指導法 : 器械運動・体づくり運動 *実技も行う
8	運動領域別の指導法 : ボール運動 *実技も行う
9	運動領域別の指導法 : 陸上運動・表現運動 *実技も行う
10	運動領域別の指導法 : 水泳（DVDの活用）・保健
11	模擬授業
12	模擬授業
13	模擬授業
14	保健学習のポスター発表
15	まとめ

評価

発表活動（30点）、レポート（30点）、試験（30点）、通常の授業態度（10点）による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年

」 光文書院 「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

内容

実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格、子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
4	図画工作科の授業（1）造形遊び
5	図画工作科の授業（2）絵や立体、工作に表す活動
6	図画工作科の授業（3）木工作演習1
7	図画工作科の授業（3）木工作演習2
8	図画工作科の授業（3）木工作演習3
9	図画工作科の授業（3）木工作演習4
10	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について1
11	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について2
12	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について3
13	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について4
14	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について5
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕福田隆真・茂木一司・福本謹一（編集）『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

〔推薦書〕大橋功監修・編著『美術教育概論』日本文教出版

渡邊千恵子『小学校指導法 図画工作』玉川大学出版部

その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

内容

実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格、子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
4	図画工作科の授業（1）造形遊び
5	図画工作科の授業（2）絵や立体、工作に表す活動
6	図画工作科の授業（3）木工作演習1
7	図画工作科の授業（3）木工作演習2
8	図画工作科の授業（3）木工作演習3
9	図画工作科の授業（3）木工作演習4
10	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について1
11	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について2
12	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について3
13	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について4
14	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について5
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕福田隆真・茂木一司・福本謹一（編集）『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

〔推薦書〕大橋功監修・編著『美術教育概論』日本文教出版

渡邊千恵子『小学校指導法 図画工作』玉川大学出版部

その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校生活科をどのように低学年児童に指導すればよいかを具体的な実践を踏まえて行う。幼稚園・保育所と小学校の連携をはかり、幼稚園要綱や小学校学習指導要領に基づいて生活科のねらいや目標、指導内容を押さえる。また、指導力を高めるために協力して活動指導案作成や模擬授業を行い、さらに児童の実践体験の一部も加えて理解を深める。

内容

- ガイダンス及び生活科の特徴と関連
 - 生活科の誕生と幼小関連の重要性
 - 小学校低学年に位置づいている理由と教科の特性
- 生活科教科書を読み解き具体的な学習内容の構成を知る。
 - 年間指導計画について
 - 2年間の学習内容の流れの事例を教科書から大単元に起こしてみる。
 - 具体的な観点別の活動内容をグループで相談し分担しあって指導案を作成する。
 - グループ内で相互に模擬授業を行い評価し合う。
 - 全体で模擬授業を試行し、指導法のポイントを押さえる。
- 小学校生活科の実践について指導法を考えながら実習する。
 - 自然とのかかわりから
 - キャンパス畑の観察や種まき収穫を体験する。
 - 飼育栽培について学び具体的な活動を考える。
 - どのような活動ができるか考えながら、実際大学外に出て新座町探検をする。
 - 事前のアポイントの取り方を知り相手と訪問の承諾や連絡確認をする。
 - 調査方法やまとめ方を方を相談し実際に町探検に出かける。
 - ～ 表現方法を工夫し、探検に関する作品を1点仕上げる。（例 マップ、冊子、紙芝居等）
 - 全体で発表し合う
- 評価について
 - 全体を振り返って学習指導案確認やまとめをする。

評価

毎回の課題75%程度、実習や作品25%程度で総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校生活科教科書 東京書籍、小学校学習指導要領解説 生活科編 文科省

【推薦書】生活科事典 東京書籍 これからの生活・総合 田村学、嶋野道弘編著 東洋館【参考図書】授業内で提示する

科目名	教材研究		
担当教員名	清水 玲子、廣坂 多美子、増田 吉史、津吹 卓 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校教諭一種取得のための選択科目である。通年で4教科のオムニバスとなっている

国語科、社会科、算数科、理科の4教科の教材について内容や指導法なそ具体的に研究することを目的とする。繰り返し履修が可能であるの。

それぞれの教科の指導目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究を学ぶ。指導案を書き模擬授業をするなど、実践的に学ぶ。

内容

国語科、社会科、算数科、理科それぞれの教材について、領域、学年ごとに教材を選び、研究する。

必要に応じて、指導案を書いたり、資料を作成するなど実践的な学びを行う。発問や板書、評価など具体的な課題についてそれぞれの教科特性に応じて学ぶ。

評価

課題に応じてレポートしたり、模擬授業に取り組んだりする。（4割）、授業について記述する。（3割）、最終レポート（3割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説、（各教科の解説）（文部科学省）

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践(1) 学生の選択した主題	
14	14. 模擬授業の実践(2) 学生の選択した主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『小学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	教育方法		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

以下に取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
- 4 指導案作成（実習課題）
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
- 15 まとめ

評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を40%、 最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	山本 悟、高橋 京子、岡上 直子、佐見 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、幼児の健康・安全・運動に関する指導のあり方を学ぶものである。

科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や生活リズムを身につけさせる方法や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的なあり方を理解する。指導法を学ぶ場として模擬授業的な活動を設け、受講者全員に発表活動を体験させる。4名の教員が専門性を生かし、オムニバス形式で授業を担当する。

学修目標

幼児における健康の意義とその必要性を理解し、健康に関する保育指導法の知識や技能を身につけることができる。

内容

1	オリエンテーション（本講義のねらいについて）
2	幼児における健康的な生活について
3	子どもの心身の発育・発達とその特性
4	子どもの生活リズムおよび基本的な生活習慣
5	幼稚園における実際活動を知る（その1） * 幼稚園の生活の実態を学ぶ
6	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
7	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
8	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
9	幼稚園における実際活動を知る（その2） * 運動会の運営とその指導上の留意点
10	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）子どもの体力測定
11	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）
12	子どもの安全指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）* 活動の実際と留意点
13	幼稚園における実際活動を知る（その3） * 子どもの生活習慣づくり
14	子どもの救急法を学ぶ
15	まとめ

評価

発表活動と振り返りのレポート（40%）、まとめのレポート（40%）、授業への取組および態度（20%）による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

【推薦書】 河邊貴子編 「保育内容（健康）」 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、幼児の健康・安全・運動に関する指導のあり方を学ぶものである。

科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や生活リズムを身につけさせる方法や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的なあり方を理解する。指導法を学ぶ場として模擬授業的な活動を設け、受講者全員に発表活動を体験させる。4名の教員が専門性を生かし、オムニバス形式で授業を担当する。

学修目標

幼児における健康の意義とその必要性を理解し、健康に関する保育指導法の知識や技能を身につけることができる。

内容

1	オリエンテーション（本講義のねらいについて）
2	幼児における健康的な生活について
3	子どもの心身の発育・発達とその特性
4	子どもの生活リズムおよび基本的な生活習慣
5	幼稚園における実際活動を知る（その1） * 幼稚園の生活の実態を学ぶ
6	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
7	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
8	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
9	幼稚園における実際活動を知る（その2） * 運動会の運営とその指導上の留意点
10	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）子どもの体力測定
11	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）
12	子どもの安全指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）* 活動の実際と留意点
13	幼稚園における実際活動を知る（その3） * 子どもの生活習慣づくり
14	子どもの救急法を学ぶ
15	まとめ

評価

発表活動と振り返りのレポート（40%）、まとめのレポート（40%）、授業への取組および態度（20%）による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

【推薦書】 河邊貴子編 「保育内容（健康）」 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」とある。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. ものとの出会い-1
4. ものとの出会い-2
5. ものとの出会い-3
6. ものとの出会い-4
7. ものとの出会い-5
8. ものとの出会い-6
9. ものとの出会い-7
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60%)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40%)により総合的に判断します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また、保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. ものとの出会い-1
4. ものとの出会い-2
5. ものとの出会い-3
6. ものとの出会い-4
7. ものとの出会い-5
8. ものとの出会い-6
9. ものとの出会い-7
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60%)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40%)により総合的に判断します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（表現）		
担当教員名	狩野 浩二、久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育職員免許法に定められた「指導法」に関する科目である。幼稚園教員免許状一種取得（小学校教員免許一種取得者に限る）に必要な科目であり、身体表現，朗読，歌唱表現等を子どもたちに指導する際の内容や方法について学ぶ。

この科目では，子どもたちの身体表現，朗読表現，歌唱表現等を指導する際に必要となる教師の技術について，実際に作品を教材として実際に学ぶことになる予定である。学修に際しては，運動のできる服装，裸足になることがあること，などに留意すること。

まずは，学生自らが心をひらいて表現する経験を積むことである。その上で，子どもたちに表現活動を指導する際には，どのようなことに注意したらよいかを実技を交えて学ぶことである。

内容

教室において，取り組む教材を紹介する。その上で，朗読表現，歌唱表現，身体表現等について，個人やグループで個別的に学修し，お互いにそれぞれの良さを学び合うことになる。

教材としては，梶山正人オペレッタ曲集のなかから，子どもたちが取り組むことによって，自己を解放し，それぞれの表現力が向上していく実践において成果のあったものを選ぶ予定である。

毎回の授業において，取り組む作品についての教材解釈，個人練習，集団練習の方法，作品構成の理解，発表までの道筋，発表における留意点等を，実際に学ぶことになる。

評価

毎回の取り組みの様子を総合して評価する。最終的には，振り返りの課題を提出してもらい，その内容を加味して単位を認定する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト（教科書）は，印刷して配布する予定である。

参考文献

梶山正人，松平信久，横須賀薫編『心をひらく表現活動』全三巻，教育出版

斎藤公子『さくら・さくらんぼのリズムと歌』群羊社

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法を身に付けることを目的としている。

科目の概要

幼児の「発達の過程」の概要と「一人一人の幼児を理解すること」の意味及び方法について理論から学ぶ。また、具体的な幼児の行動記録やビデオ記録等からの読み取りを通して、幼児を理解するための手がかりや方法について学ぶ。

学修目標

- ・ 幼児を理解する力の基礎となる幼児の心身の発達や認知の傾向等を理解する。
- ・ 多面的な幼児理解の方法について知る。
- ・ 幼児理解の具体的な視点を学び、幼児の発達や活動の意味を捉える力を身に付ける。

内容

- 第1回：幼児理解の基本的な視点
- 第2回：発達や学びの連続性
- 第3回：肯定的な理解・評価
- 第4回：発達の過程と一人一人の幼児の理解（3歳児、4歳児）
- 第5回：発達の過程と一人一人の幼児の理解（5歳児）
- 第6回：集団と個の関係
- 第7回：幼児理解のための教師の姿勢
- 第8回：教師の学び合い・多面的な理解
- 第9回：幼児の行動記録の方法と留意点
- 第10回：記録の工夫と実際
- 第11回：記録の読み取りと分析・評価
- 第12回：記録から深める幼児理解と評価
- 第13回：日常の評価と指導要録への記入
- 第14回：幼児理解に求められる教師の専門性
- 第15回：まとめ

評価

授業への取り組み30%、課題提出70%で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<テキスト>

文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」 ぎょうせい

科目名	学校観察実習		
担当教員名	綾井 桜子、清水 玲子、増田 吉史、山本 悟 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

概要

当学科が指定する新座市内の小学校を中心としたボランティア活動等の経験をもって単位を認定する。

到達目標

学校教育活動における児童の実態のあらましについて知ること。

教職員の教育活動の実際を知ること。

学校が立地する周辺環境に合わせた教育課程の編成に関する基本を知ること。

内容

大学の授業がない夏休みや冬休みに、指定した小学校のボランティアに参加する。ボランティア活動時間は、記録証明簿に記載しておく。またウェブ上の履修カルテにも記入すること。

毎回、「ボランティア活動日誌」をつけることにより、自分の行動、見方、考え方を振り返る。それは、自分自身を見つめ直すことであり、自己を磨くことにつながる。その中から、自分の考え方の変化や教師を目指そうとする確固とした意識の芽生えが起こってくるであろう。そうしてこそ、子どもとの関わり方などの教育技術も身につけることができるのである。

さらに、学校現場に身を置くことにより、教師としての、言葉使い、服装、行動、その他さまざまな留意点にも配慮できる経験を積んでほしい。

評価

ボランティア活動時間ならびに活動日誌を点検することで、学生個々の学校観察の内容を吟味して採点する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

事前指導の折に、適宜、紹介する。

科目名	国語		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 幼稚園教諭一種及び小学校教諭一種を取得するための必修科目である。
- 小学校の国語科を指導するにあたって、言語に関する一般常識を身につける。
- ことばについての知識や学び方を知る。
- ことばの学びに必要な知識を実践を通して身につける。
- さまざまな言語体験を通して「ことば」に対する関心を高める

内容

1	国語、日本語、ことば
2	文字 (ひらがな、かたかな、漢字)
3	文字と親しむ
4	ことばの決まり
5	読む楽しさ (図書館の利用、読み聞かせ、辞書)
6	読書紹介
7	言語事項
8	声に出す (音読、朗読、劇化)
9	演じてみる
10	本づくり
11	新聞を読む
12	古典に親しむ
13	書写 (硬筆)
14	書写 (毛筆)
15	まとめ

評価

ミニレポート (3 割)、実践参加の状況 (3 割)、最終レポート (4 割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領解説 (国語科)

科目名	算数		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づける。「初等算数科教育」「教材研究(算数)」「授業研究(算数)」へと発展していく。

算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる。指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通じた数や量の形の概念獲得を知る。算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに問題解決学習を体感する。

内容

1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピング・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著(東洋館出版社)

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、理論編(明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、1-3年実践編(明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、4-6年実践編(明治図書)

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては、講義形式をとり、ピアノの技術に関しては、個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の70番から始まり半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」まで進む。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては、講義形式をとり、ピアノの技術に関しては、個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の70番から始まり半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」まで進む。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法(音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては、講義形式をとり、ピアノの技術に関しては、個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の70番から始まり半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」まで進む。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験(70%) 通常の授業態度(30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本(全音楽譜出版) ソナチネ1(全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては、講義形式をとり、ピアノの技術に関しては、個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の70番から始まり半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」まで進む。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法(音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては、講義形式をとり、ピアノの技術に関しては、個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の70番から始まり半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」まで進む。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験(70%)通常の授業態度(30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本(全音楽譜出版) ソナチネ1(全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	図画工作		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接接触して体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書および参考図書は授業内で適宜紹介する。

科目名	図画工作		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ考え心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳幼児児童期に保障していけるだろうか。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形行動に無関心になっている学生に、造形行動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

学修目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ・紙との出会い 1
2. 紙との出会い 2
3. 紙との出会い 3
4. 紙との出会い 4
5. 絵の具との出会い 1
6. 絵の具との出会い 2
7. 絵の具との出会い 3
8. 絵の具との出会い 4
9. 木との出会い 1
10. 木との出会い 2
11. 木との出会い 3
12. 粘土との出会い 1

13. 粘土との出会い 2
14. 粘土との出会い 3
15. エピローグ・水との出会い

評価

演習を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料を基に書き加えて、自分自身の資料集を作り上げる(60%)。そのスケッチブックによって各々の感性、意欲について評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書および参考図書は授業内で適宜紹介する。

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。なわとび運動からは分習法の有効性を、ボール運動からはボール操作と戦術論の理解を、陸上運動と器械運動からは合理的な動作習得の手続きを取り上げる。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する理解を深める活動にも取り組ませるとともに、幼稚園で扱う運動教材に関する資料も提示して理解させる。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション	
2	長なわとび（かぶりとび・むかえとび・ひょうたんとび）	* 跳び方のコツを探る
3	長なわとび（ダブルダッチに挑戦）	* 縄回しの重要性を考える
4	短なわとび（30秒早とび・あやとび・2重とび・かえしとび）	* 跳び方のコツを探る
5	ボール運動（ドッジボール）	* 投・捕の技能習得とルール効率化を考える
6	ボール運動（キックベース）	* 蹴る技能の習得と戦略の重要性を探る
7	ボール運動（プレルボール）	* 新しい教材の理解
8	陸上運動（走運動とリレー）	* 走り方と競うことの意味を考える
9	陸上運動（ハードル走）	* コースづくりの工夫と方法を知る
10	器械運動（鉄棒）	* 逆上がりとかかえ込み回りに挑戦
11	器械運動（マット）	* 後転、壁逆立ち、側転に挑戦（下位運動の理解）
12	保健・衛生に関する活動（保健活動の内容と領域の理解）	
13	保健・衛生に関する活動（ポスター発表）	
14	保健・衛生に関する活動（ポスター発表）	
15	体育科と特別支援教育の接点（映像から学ぶ：視聴後の省察と授業全体の総括）	レポート提出

評価

各単元ごとのノート整理30%、平常点（授業への取組・意欲・関心）30%、レポート40%として、総合的に評価

する。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院
「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院
- 【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」 不昧堂出版

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・ 小学校の教科としての「社会」の目標及び各学年の学習内容を理解する。
- ・ 社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・ 社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・ 小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・ 社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 低学年の生活科とのかかわり 学習内容とのかかわり
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における図表の活用（3） 年表の見方・活用の仕方
- 12 日本歴史年表を作る 歴史上の出来事を年表に表し、年表上で考える
- 13 社会科学習における公民的内容（1）
- 14 社会科学習における公民的内容（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物 60 点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等） 40 点、により総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成 20 年 8 月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校学習指導要領 平成 20 年 3 月 文部科学省 東京書籍

科目名	生活		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校低学年教科の生活科がどのような学習であるかの概要を知り、ねらいや内容を具体的な実習や活動場面に触れることでより詳しく理解し、指導のポイントを身につける。また、仲間と協働してさまざまな体験を通し、これからの生活科のあり方を模索して、教員としての指導力や資質の向上を高めることをねらう。

内容

- 1、本授業の生活についてのガイダンス
生活の概要、予定、準備等を説明する。
- 2、幼児や低学年児童にとっての遊びや学校生活の意義
保育の中の子どもや保育者の役割
幼小連携とは何か
- 3、小学校入門期の指導
学校生活と入門期の学習
生活科についての概要（小学校学習指導要領、幼稚園指導要綱のねらいと内容）
- 4、生活科とはどのような教科か
自然にかかわるねらいと内容
児童教育畑の実りの採取
大学キャンパス内の自然見つけと落ち葉の造形製作
製作にかかわるねらいと内容
廃品等を利用して製作する
地域社会にかかわるねらいと内容
自分の町をマップで表現する
マップを元に自分の町自慢を発表し合う。
- 5、実際の指導はどのようにするのか
年間カリキュラム編成の意味と事例研究
学習指導案の事例から指導案の意義を学びまとめとする。

2回ほど折り紙を折って製作に加える。

評価

毎回課題レポート75%程度、作品他25%程度を総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし その都度作成資料配付

【参考図書】学習指導要領・生活科の指導書 「新しい生活」小学校生活科教科書 東京書籍

生活科事典 東京書籍 他の参考図書は授業内で提示する。

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校の理科は、1・2年の生活科の内容を元にして、第3学年からの学習となる。その内容は「生物とその環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の3つの区分で構成される。中学年から高学年にかけて、問題解決的な学習と体験的な活動が重視されている。また、中学校以上の理科を学ぶための基礎となる内容なので、身に着けておく必要がある。青少年の「理科離れ・科学離れ」が社会問題となって久しい。子供たちが大人になって社会でよりよく生活するためにも、この現象に少しでも歯止めをかけるための大事な役割を持っている。

上記3区分を、講義と実験観察を通して具体的に知識や理解を深めるとともに、生活の中での体験と もつなげ、体感としての理解も経験する。

自然科学の基本的な事実を知り、そこから法則を導くことを、児童の身体的・精神的能力の発達段階 にふさわしい内容と順序を持って、正確に理解させることが必要である。そのために、まず教員の立 場で理科の不思議さと奥深さを体験し、そこから教えることにつなげる思考と工夫を行う。

内容

1	理科教育とは何か、学生にとって教える上でどこに問題点があるのか
2	自然を知るとはどのようなことか
3	観察方法の工夫 (春)
4	春の観察のまとめ方
5	春の観察の発表
6	春の観察の発表
7	電気とその性質
8	物体の運動
9	物質の性質と変化
10	物質の構造
11	地球と太陽系
12	観察方法の向上 (夏)
13	春と比較した夏の観察の発表
14	春と比較した夏の観察の発表
15	まとめ

評価

実験・観察レポート (40%) , 最終テスト (40%) , 授業中の課題への取り組み (10%) , 授業参加度 (10%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

【推薦書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社），変わる理科教育の基礎（東洋館出版社）

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校の理科は、1・2年の生活科の内容を元にして、第3学年からの学習となる。その内容は「生物とその環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の3つの区分で構成される。中学年から高学年にかけて、問題解決的な学習と体験的な活動が重視されている。また、中学校以上の理科を学ぶための基礎となる内容なので、身に着けておく必要がある。青少年の「理科離れ・科学離れ」が社会問題となって久しい。子供たちが大人になって社会でよりよく生活するためにも、この現象に少しでも歯止めをかけるための大事な役割を持っている。

上記3区分を、講義と実験観察を通して具体的に知識や理解を深めるとともに、生活の中での体験と もつなげ、体感としての理解も経験する。

自然科学の基本的な事実を知り、そこから法則を導くことを、児童の身体的・精神的能力の発達段階 にふさわしい内容と順序を持って、正確に理解させることが必要である。そのために、まず教員の立 場で理科の不思議さと奥深さを体験し、そこから教えることにつなげる思考と工夫を行う。

内容

1	理科教育とは何か、学生にとって教える上でどこに問題点があるのか
2	自然を知るとはどのようなことか
3	観察方法の工夫（春）
4	春の観察のまとめ方
5	春の観察の発表
6	春の観察の発表
7	電気とその性質
8	物体の運動
9	物質の性質と変化
10	物質の構造
11	地球と太陽系
12	観察方法の向上（夏）
13	春と比較した夏の観察の発表
14	春と比較した夏の観察の発表
15	まとめ

評価

実験・観察レポート（40%）、最終テスト（40%）、授業中の課題への取り組み（10%）、授業参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

【推薦書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社），変わる理科教育の基礎（東洋館出版社）

科目名	家庭		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

家庭生活を中心に小学校5, 6年児童を対象にした教科である家庭科の概要を扱う。家庭科教育の変遷を踏まえて生活における今日的課題も取り扱う。児童の実態や実践を盛り込んでこれからの家庭科のあり方を考えると共に家庭科教育の中でも特に小学校の指導に視点を置き、小学校学習指導要領の中にどのように位置づけられているかを把握する。個人の生活に関する課題追求の他、児童が行う調理実習や被服製作の一端にも触れ理解を深める。指導法にも多様な方法があることを知る。

内容

1、家庭科教育で何を学ぶのか

本授業計画と評価、個人で準備するものなどのガイダンス

自分自身の家庭生活を振り返り課題を持ち、生活レポートにして提出する。

2、家庭科教育について

家庭科の変遷

小学校家庭科の位置づけと主な目標や内容 (小学校指導要領)

3、小学校家庭科の主な学習内容

衣食住家族生活等の領域の主な内容に触れ簡単な実践や実習を盛り込む。

～ 衣生活 (衣服の役割や縫製指導 製作実習)

～ 食生活 (調理実習、食品、栄養等の指導内容)

～ 家族生活 (上記の3領域と関連づけて扱うほかロールプレイングをグループで制作し発表を入れる)

4、生活の中の今日的課題

指導事例から消費者問題を考える。

サステイナブルな生活を目指す

できるだけ各授業初めに生活レポートの発表を入れる

実習室使用の関係で順序が入れ替わることがある

評価

生活レポート10%、毎回課題レポート75%、作品15%程度で総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校指導要領

【推薦書】こどもとおとなが一緒に読む絵本「人と食べものの話」5巻 農山漁村文科協会

【参考図書】授業内で紹介提示する。

科目名	家庭		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

家庭生活を中心に小学校5, 6年児童を対象にした教科である家庭科の概要を扱う。家庭科教育の変遷を踏まえて生活における今日的課題も取り扱う。児童の実態や実践を盛り込んでこれからの家庭科のあり方を考えると共に家庭科教育の中でも特に小学校の指導に視点を置き、小学校学習指導要領の中にどのように位置づけられているかを把握する。個人の生活に関する課題追求の他、児童が行う調理実習や被服製作の一端にも触れ理解を深める。指導法にも多様な方法があることを知る。

内容

1、家庭科教育で何を学ぶのか

本授業計画と評価、個人で準備するものなどのガイダンス

自分自身の家庭生活を振り返り課題を持ち、生活レポートにして提出する。

2、家庭科教育について

家庭科の変遷

小学校家庭科の位置づけと主な目標や内容 (小学校指導要領)

3、小学校家庭科の主な学習内容

衣食住家族生活等の領域の主な内容に触れ簡単な実践や実習を盛り込む。

～ 衣生活 (衣服の役割や縫製指導 製作実習)

～ 食生活 (調理実習、食品、栄養等の指導内容)

～ 家族生活 (上記の3領域と関連づけて扱うほかロールプレイングをグループで制作し発表を入れる)

4、生活の中の今日的課題

指導事例から消費者問題を考える。

サスティナブルな生活を目指す

できるだけ各授業初めに生活レポートの発表を入れる

実習室使用の関係で順序が入れ替わることがある

評価

生活レポート10%、毎回課題レポート75%、作品15%程度で総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校指導要領

【推薦書】こどもとおとなが一緒に読む絵本「人と食べものの話」5巻 農山漁村文科協会

【参考図書】授業内で紹介提示する。

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、阿子島 茂美、飯野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容

1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥/多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】湯浅恭正編『よくわかる特別支援教育』ミネルヴァ書房、石部元雄・柳本雄次編著『特別支援教育 理解と推進のために』福村出版、下司昌一編『現場で役立つ特別支援教育八

ンドブック』日本文化科学社

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2,3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に生かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。また、現職教員による実際の指導例、グループによる調査、報告、演劇を通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2,3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に生かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。また、現職教員による実際の指導例、グループによる調査、報告、演劇を通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（08年度は「利根川」 斎藤喜博・詩、近藤幹雄・曲、09年度は「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲、10年度は、「善知鳥（うとう）の浜」、11年度は「利根川（朗読）」、今年度は、「かたくりの花」に取り組む予定です）。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（１）～（３）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（08年度は「利根川」 斎藤喜博・詩、近藤幹雄・曲、09年度は「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲、10年度は、「善知鳥（うとう）の浜」、11年度は「利根川（朗読）」、今年度は、「善知鳥（うとう）の浜」に取り組む予定です）。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点）を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格と概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。学習情報センターとしての学校図書館機能を発揮する上で、司書教諭5科目のうち最も中核的な科目である。

学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 学校図書館の各種メディアの特性と活用方法を体得する。
- 3) 指導内容の具体的な理解を図る。
- 4) 児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。
- 5) 教員の教育活動への支援方法を考える。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の探索 (図書館での演習)
5	指導内容の具体的検討
6	指導内容の確認と確定 (発表・討議)
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化 (グループ討議)
9	指導内容の体系化 (討議結果の発表)
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の1単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成の個別指導と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科目名	教職基礎演習		
担当教員名	廣坂 多美子、増田 吉史、高橋 京子、綾井 桜子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 小学校教員の職務の実際や担任教師の動きを、演習を通して、その実際の様子を知る。

科目の概要 小学校教員の職務の基礎的な事項について、課題を分担し、調べることにより、理解を深める。行事や集会などの計画作成や模擬指導を行うことにより、指導者の立場から学校を見直す。

学修目標 計画書を作成したり、模擬指導を行うことを通し、小学校教員の職務を理解する。教職に対する適性について判断基準を得る。

内容

前期

- 1 オリエンテーション
- 2 学校の目的、学校の1年間
- 3 教師の役割、教師の1年間
- 4～8 グループワーク ～
- 9 中間発表 グループワーク ～
- 10 勤労生産活動の体験 （サツマイモ植え付け）
- 11 模擬指導 安全指導
- 12 模擬指導 生活指導
- 13 模擬指導 集会指導
- 14 模擬指導 集会指導
- 15 実践報告 反省・まとめ

後期

- 1 勤労生産活動の体験 （サツマイモ除草・蔓がえし）
- 2～3 模擬指導 ～ 特別活動
- 4 模擬指導 体育的行事
- 5 勤労生産活動の体験 （サツマイモ収穫）
- 6～9 模擬指導 ～ 体育的行事
- 10～14 模擬指導 ～ 文化的行事
- 15 実践報告 反省・まとめ

評価

計画書作成や模擬指導など（60％）、試験（40％）によって総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 総則編

【推薦書】なし

科目名	教職発展演習		
担当教員名	山本 悟、津吹 卓、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深める。体験活動については、模擬指導を通し、学校教育における位置や、対応の仕方を理解する。

科目の概要

講義を受けると共に、主体的に事例を調べ、発表しあう中で、表現力を高め、理解を深める。後期を集中講義とし、集団宿泊行事の場面で模擬指導を行い、体験学習の指導の進め方、配慮事項を学ぶ。

科目の目標

- ・子どもたちのおかれている社会状況をふまえ、学校教育が抱える課題を具体的にとらえ、考察し、理解を深める。
- ・諸課題に関して自己の考えをもち、分かりやすく表現する力をつける。
- ・体験活動の事例を調べ、模擬指導を通し、体験活動の重要性、学習の進め方、配慮事項について理解を深める。

内容

前期

第1回 オリエンテーション

第2回 学校における教育課程の変遷

第3回 学校教育の今日的課題

第4回～第9回 グループワーク 学校教育の今日的課題に関する事例検討

（学力の向上、生徒指導上の課題、児童の心に関する課題、家庭の教育力の課題、学級崩壊、小1プロブレム・中1ギャップ、教員のメンタルヘルス等）

第10回 国の教育方針・施策の動向、各種の教育答申

第11回 各都道府県・政令市が掲げる教育方針・教育施策

第12回～第14回

今日的課題に対する自己の考えをまとめる

（文章によるまとめ、言葉によるまとめ、話し合いによるまとめ）

第15回 まとめ

後期 集中講義として実施する

第1回 オリエンテーション 集団宿泊的行事の位置づけ

第2回・第3回 グループワーク 集団宿泊的行事に関する事例検討

（宿泊を伴う行事での生活指導・健康管理・安全管理・体験活動）

第4回～第12回 模擬指導

（行事の事前指導、宿泊を伴う行事での生活指導・健康管理・安全管理、

自然体験活動の指導（飯盒炊爨・登山・野外活動・キャンプファイア等）、行事の事後指導）

第13回・第14回 グループワーク 体験活動の評価

評価

計画書作成や模擬指導など(50%)、試験(50%)によって総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「生徒指導提要」文部科学省 教育図書出版株式会社発行

【推薦書】授業の中で紹介する。

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most.

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most.

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	教育学特別講義		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は児童教育学科専門科目における、教育の理論および実践の応用に関する科目の一つです。1年次必修の教育学概論の履修後、教育の理論について理解を深めるための科目です。

欧米を中心とした教育の歴史（近代以降）について、教育の基礎理論とこれをうみだした教育家を対応させながら扱います。本科目で扱う内容は、いずれも教職教養のなかで重要な位置づけを与えられてきたものです。

近代から現代に至るまで、教育の前提となってきた基本的な考え方について知り、理解することを目標とします。

内容

1	近代教育を歴史的にみる
2	印刷術の発明と教科書の誕生 コメニウス『世界図絵』
3	あらゆる人にあらゆることを教える コメニウス『大教授学』
4	習慣形成と教育 ロック『教育論』
5	近代的子ども観の誕生と教育 ルソー『エミール』
6	人間の教育 ルソー『エミール』
7	ペスタロッチと「メトーデ」
8	学校教育と教授 ヘルバルト
9	新教育の実践と「児童中心主義」
10	デューイ・スクールの実践 『学校と社会』
11	経験としての教育
12	「方法的社会化」としての教育
13	教育と学習
14	課題発表
15	課題発表

評価

レポート60点、授業への取り組み20点、課題発表20点の合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】【推薦書】授業時に紹介する

【参考図書】今井康雄編『教育思想史』有斐閣